

『花を訪ねて： 曼珠沙華（彼岸花）』

藤沢の小出川彼岸花散策（令和2年9月29日（火））

今年も彼岸花を見ようと考えたが、梅雨明けが遅く8月に暑かったために開花が遅れている。例年では秋分の日頃満開を迎えるのだが、今年は16日に藤沢市の観光センターに問い合わせたら、「花茎がようやく出始めたところで、見頃は9月下旬から10月初旬か」とのこと。日程は悩んだが、21日には拙宅のクリーム色の彼岸花も五分咲きになったので、「ウェザーニュース」を調べ、月末の29日（火）に決めて、伊藤さんにお声をかけたら、回状を廻してくれた。

小田急相模原線：湘南台駅から慶応大学行きのバスで行けば便利なので、9時20分、湘南台駅集合とした。小生は以前には辻堂から行ったので、こちらからは初めてで少し早く着いて、バス停の場所など“現地調査”をすることにした。湘南台駅に来てみると、“慶応”行きのバス停が見つからない。いささか慌ててバスの運転手さんに訊くと100m以上先にあるという。分からない筈だ。9時半頃、伊藤さん神田さんと合流して予定の「慶応大学」行きのバスに乗った。通学時間帯には“急行”の連接バスが頻繁に走っている。

雲もあるが薄日の差す中を、10時にバス終点から歩き出し、小出川沿いに10分ほど歩くと「大黒橋」に着く。ここから小さな小出川の兩岸の土手に彼岸花が群落をなして咲いている。すぐ「遠藤会場」という木製のベンチが幾つか設えてある広場に出る。今年の「小出川彼岸花まつり」は21日（月；秋分の日）だったので、全く花が無く、気の毒に多分中止になっただろう。

川の兩岸に彼岸花が咲いているのだが、今日は花全体では六～七分咲きといったところで、まだ蕾の花茎が沢山残っている。更に開花が進むと枯れだした花茎も目立つようになるので、色合いとしては一番よい時期だと思う。枯れだすと、櫻のように満開から花びらが散るのとは違い、枯れた茎が花の間に残るのであまりよくない。赤い色の花が多いが、クリーム色の花もある。赤色では花びらの縁が白色になった種類があり、綺麗だ。

途中の「小出橋」付近からは、川の下流に向かって、彼岸花を手前にして背景に富士山がよく見える筈だが、今日は雲の中だった。川の両側には田圃が広がり、黄色の稲穂が頭を垂れていた。一部では“コンバイン”というのかエンジン付き機械に乗り込んで刈取りを行っていた。時々“イナゴ”か“バッタ”が飛び跳ねる。また、鳥除けに大きさ1m位のトンビ凧が風に舞っていた。川の中ほどに十数匹の大きさ40cm位の鯉が泳いでいる。付近の農家で養殖しているのだろう。「泥臭さくて食べられないね」「いや、10日位生簀で泥を吐かせたら食べられるのでは」とか。花を見に来ている人はあまり多くはないが、土手上の細い畔道でのすれ違いは一步脇に避けてやり過ごすことになる。「3密」にはならないが、マスクをして歩いたので、時々はずして息継ぎをしました。

約1時間歩いて11時に「新道橋」の先の3番目の鉄骨鉄板張仮設橋に着いた。当初の目的では「追出橋」まで行くことだったが、この先には彼岸花はあまり咲いていないので、“臨機応変”に引き返すことにした。帰りは対岸に渡って引き返す。こちら側には田圃の一部をつぶしたのだろうか、幅数メートルにわたって花の群落が植えられている。少し低いので向う岸からは見えないのだ。

11時50分に「遠藤会場」に戻ってきて、ここのベンチを借りて休憩・昼食とした。周りに柿の木があり、すでに色付いた柿が沢山なっている。「これは渋柿なので誰も取らないのかな」と思ったが、周りに半分食べた残りも落ちている。試しに色の濃いのを取ってかじってみたら、それほど渋くない代り甘くもないということだった。ゆっくり休み、12時45分、慶応バス停へ戻る。

バス停に着いてみて、驚いた。200人以上の生徒が待っている。今頃下校とは！時差通学なのだろうか。バスは湘南台行きと辻堂行きがあるのだが、殆どの生徒は湘南台へ向かうと。湘南台駅は小田急、横浜地下鉄、相鉄の連絡駅なので、乗客が多いのだろう。目の前の待機場には5~6台のバスが停まっているのだが、時刻表に従って運行しているのか、200人も待っていても知らん顔だ。山の中で1時間に1本のバスを待つのは、そう苦にならないが、目の前に沢山停まっているのに待つのはいらす。しかも「密接」だし。結局約40分待って乗車できた。湘南台駅からは小田急線内で流れ解散した。

以上 陽田



小出川岸の彼岸花



彼岸花の群落



マスクを外さない方も！（正面に富士山が）



クリーム色の彼岸花